

中小企業景況調査報告書

2017年 7月～ 9月期（実 績）

2017年 10月～12月期（見通し）

はじめに

日銀が10月2日に発表した9月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業でプラス22だった。前回の6月調査のプラス17から5ポイント上昇し4四半期連続で改善した。これは、10年ぶりの高水準となり、2008年秋のリーマン・ショック後で最も高くなっている。円安で輸出が好調だったことやIT関連の設備投資、自動車部品の生産も堅調に推移した。大企業・非製造業の業況判断指数は前回のプラス23から横ばいとなっている。建設や不動産は景況感の水準としては高いが、宿泊・飲食サービスが、深刻な人手不足で景況感を押し下げたほか夏季の天候不順も響いた。

中小企業・製造業の業況判断指数は前回のプラス7から3ポイント改善し、プラス10となった。これで5四半期連続して改善となっている。中小企業・非製造業も前回のプラス7から1ポイント改善してプラス8となっており、こちらも5四半期連続で改善している。

3か月後の先行きの見通し（本年12月予測）は、大企業・製造業がプラス19と今期より3ポイント悪化、大企業・非製造業もプラス19と今期よりも4ポイント悪化すると予測しており、北朝鮮のミサイル問題や人手不足が業績を圧迫する懸念があると見られる。中小企業においては、製造業が今期より2ポイント悪化しプラス8、非製造業は4ポイント悪化しプラス4と予測しており、大企業同様、先行きに慎重な見方が多くなっている。

内閣府が9月25日に発表した9月の月例経済報告においては、国内景気は「景気は、緩やかな回復基調が続いている」との判断を維持した。これで、6月に景気判断を引き上げて以降4ヶ月連続して同じ判断となっている。9月の月例経済報告では、個人消費、設備投資、住宅建設、公共投資などの主要項目でも軒並み判断を据え置いている。

商工会地域の景況調査においては、今期（2017年7月～9月）の業況に関するD・I値は、製造業が前期より1.9ポイント改善しマイナス16.2としたが、建設業は12.5ポイント悪化しマイナス26.1、小売業は10.0ポイント悪化しマイナス42.5、サービス業も5.2ポイント悪化しマイナス17.7となっている。前期は全業種が改善し、その水準も高かったが、今期は、製造業以外は悪化に転じてた状況となっている。

来期（2017年10月～12月期）の業況予測については、製造業が今期実績よりも22.9ポイントと大幅に改善しプラス6.7になると予想している。建設業は今期実績より13.1ポイント悪化しマイナス39.2、小売業は2.2ポイント悪化しマイナス44.7、サービス業は今期より0.7ポイント改善しマイナス17.0となっている。製造業の来期予測には目を見張るものがあり、最も悪い小売業と比べると51.4ポイントの差がある。

商工会地域の景況感は、前期に全業種が改善し回復基調になるかと思われたが、今期は、製造業以外は悪化傾向に転じており、来期予測も含めて厳しい状況となっている。

調査要項

1. 調査対象

- (1) 対象地区 三重県下の 10 商工会
いなべ市商工会、桑名三川商工会、菰野町商工会、津市商工会、伊賀市商工会、
大台町商工会、玉城町商工会、南伊勢町商工会、度会町商工会、みえ熊野古道商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間 2017 年 6 月～9 月 調査時点 2017 年 9 月 1 日

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による面接調査
- (2) 調査対象企業の選出は、商工会地区市町村規模別実態を勘案して行い、調査対象地区の抽出は、業種・規模等有意選出法により行った。

4. 回答企業業種内訳

| 業 種 | | 調査 企業数 | 業 種 | | 調査 企業数 | |
|-------------|------------------|---------------|-----|-----------------------|----------------|----|
| 製 造 業 | 地 域 産 業 | 食料品製造業 | 4 | 小 売 業 | 各種商品小売業 | 1 |
| | | 飲料・飼料・タバコ製造業 | 1 | | 織物、衣服、身の回り品小売業 | 6 |
| | | 木材・木製品製造業 | 3 | | 飲食料品小売業 | 21 |
| | | 家具・装備品製造業 | 3 | | 自動車・自転車小売業 | 2 |
| | | パルプ・紙・紙加工品製造業 | 1 | | 家具・建具・什器小売業 | 4 |
| | | プラスチック製品製造業 | 2 | | その他小売業 | 8 |
| | | 窯業・土石製品製造業 | 2 | | | |
| | | 金属製品製造業 | 2 | | | |
| | | 一般機械器具製造業 | 3 | | | |
| | | 電気機械器具製造業 | 5 | | | |
| | | 輸送用機械器具製造業 | 3 | | | |
| | | その他製造業 | 4 | | | |
| | 小 計 | 33 | | 小 計 | 42 | |
| 建 設 業 | | 総合工事業 | 9 | サ ー ビ ス 業 | 一般飲食店 | 14 |
| | | 職別工事業 | 8 | | 旅館・その他の宿泊所 | 7 |
| | | 設備工事業 | 6 | | 運送業 | 5 |
| | | | | | 自動車整備業 | 6 |
| | | | | 洗濯業・理美容業 | 11 | |
| | | | | その他のサービス業 | 9 | |
| | 小 計 | 23 | | 小 計 | 52 | |
| | 小 計 | 23 | | 合 計 | 150 | |

業界天気動向図

| 項 目 | 売 上 | | | | 採算（経常利益） | | | | 資金繰り | | | |
|--------------|-----|-----|---|---|----------|-----|---|---|------|-----|---|---|
| | H28 | H29 | | | H28 | H29 | | | H28 | H29 | | |
| 年 月 業種 | 10 | 1 | 4 | 7 | 10 | 1 | 4 | 7 | 10 | 1 | 4 | 7 |
| | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 12 | 3 | 6 | 9 | 12 | 3 | 6 | 9 | 12 | 3 | 6 | 9 |
| | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| 製 造 業 | | | | | | | | | | | | |
| 建 設 業 | | | | | | | | | | | | |
| 小 売 業 | | | | | | | | | | | | |
| サービス業 | | | | | | | | | | | | |

各項目については次により表示した。

| 区 分 | 増 加 | やや増加 | 横ばい | やや減少 | 減 少 | 大幅に減少 |
|-----------------|-------|----------|----------|------------|-------------|--------|
| | 好 転 | やや好転 | | やや悪化 | 悪 化 | 非常に悪化 |
| D・I値 (前年同期比) | 20.1～ | 5.1～20.0 | 5.0～△5.0 | △5.1～△20.0 | △20.1～△35.0 | △35.1～ |
| 表 示 | 快晴 | 晴れ | 曇り | 小雨 | 雨 | 豪雨 |

1 産業全体の景況概要

業況

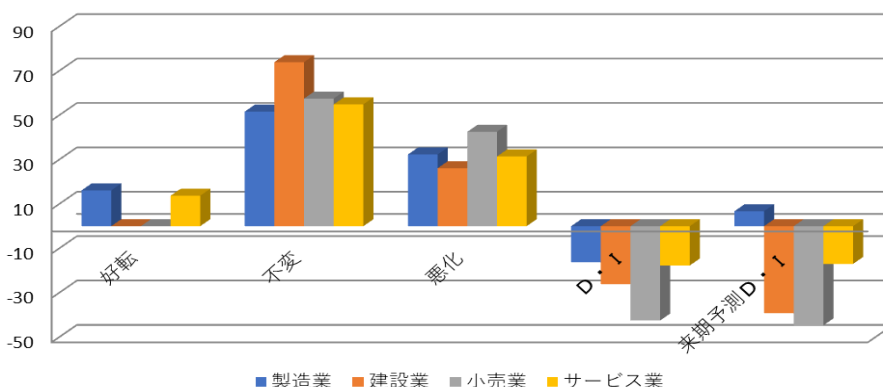
商工会地域の景況調査の前年同期比にみる今期（2017年7月～9月）の業況のD・I値は、マイナス幅の小さい順に製造業がマイナス16.2、サービス業がマイナス17.7、建設業がマイナス26.1、小売業がマイナス42.5となっている。前期（2017年4月～6月）と比べると、製造業がマイナス18.1から1.9ポイントとわずかであるが改善となっている。製造業以外では、サービス業がマイナス12.5から5.2ポイント悪化させてマイナス17.7、建設業がマイナス13.6から12.5ポイント悪化させてマイナス26.1、そして、小売業はマイナス32.5から10.0ポイント悪化させてマイナス42.5となっている。前期は、4業種ともそろって改善していたが、今期は製造業のみが改善しただけである。また、悪化したサービス業、建設業、小売業でも悪化幅にばらつきがあり、業種間の格差が広がった。

業種別に詳しく見ると、製造業は、2015年10月～12月期から改善と悪化を繰り返していたが、今期は前期に引き続き改善している。今期の改善幅は1.9ポイント小さいものであるが、近年で最もマイナス幅の小さい2015年7月～9月期のマイナス16.7を上回っており、改善傾向がさらに続いていくことを期待する。建設業は、前期まで3期連続で改善していたが、今期は悪化に転じてしまい、3期前の2016年10月～12月期の水準に戻ってしまった。小売業は、前々期のマイナス45.0から前期マイナス32.5まで回復したが、今期はマイナス42.5となり再度マイナス40の大台を超えてしまった。サービス業は、前期に31.5ポイントと驚異的な改善を示しマイナス12.5となったが、今期は反動もあってか5.2ポイント悪化させた。それでもマイナス20を切っており、前々期以前と比べるとマイナス幅は小さく、改めて改善傾向に転じることを期待する。

来期予測（2017年10月～12月期）について見てみると、製造業が今期実績より22.9ポイント改善しプラス6.7を予測しており、今期の勢いをそのまま維持し一気にプラス局面に転じる見込みである。サービス業は、今期実績より0.7ポイント改善しマイナス17.0と予測しており、ほぼ横ばいとなる見込みである。一方、小売業は今期実績より2.7ポイント悪化しマイナス44.7と依然として厳しく、建設業も今期実績より13.1ポイントと大幅に悪化しマイナス39.2と予測しており、来期は厳しい状況となる見込みである。

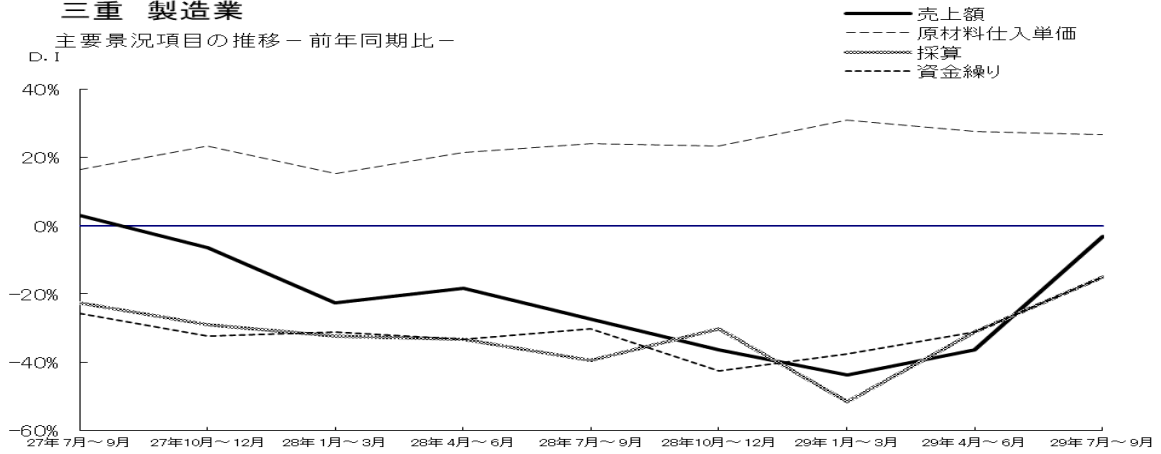
次頁以降の今期の主要景況項目（売上額、材料仕入単価、採算、資金繰り）の推移グラフをみると、業種ごとの動きにばらつきがある。製造業は売上、採算、資金繰りともに改善している。中でも売上の改善の仕方は目を見張るものがある。建設業は完成工事額のみ改善し、他の項目は下降気味となっている。小売業は資金繰りのみが改善し、売上額は大幅な悪化となっている。サービス業は、全ての項目が悪化し、特に売上の悪化度合いは大きく、再びマイナス局面に転じている。

| | 好転 | | 不変 | | 悪化 | | D・I値 | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 15.2 | 16.1 | 51.5 | 51.6 | 33.3 | 32.3 | △18.1 | △16.2 | +1.9 | 6.7 |
| 建設業 | 9.1 | 0.0 | 68.2 | 73.9 | 22.7 | 26.1 | △13.6 | △26.1 | △12.5 | △39.2 |
| 小売業 | 7.5 | 0.0 | 52.5 | 57.5 | 40.0 | 42.5 | △32.5 | △42.5 | △10.0 | △44.7 |
| サービス業 | 12.5 | 13.7 | 62.5 | 54.9 | 25.0 | 31.4 | △12.5 | △17.7 | △5.2 | △17.0 |



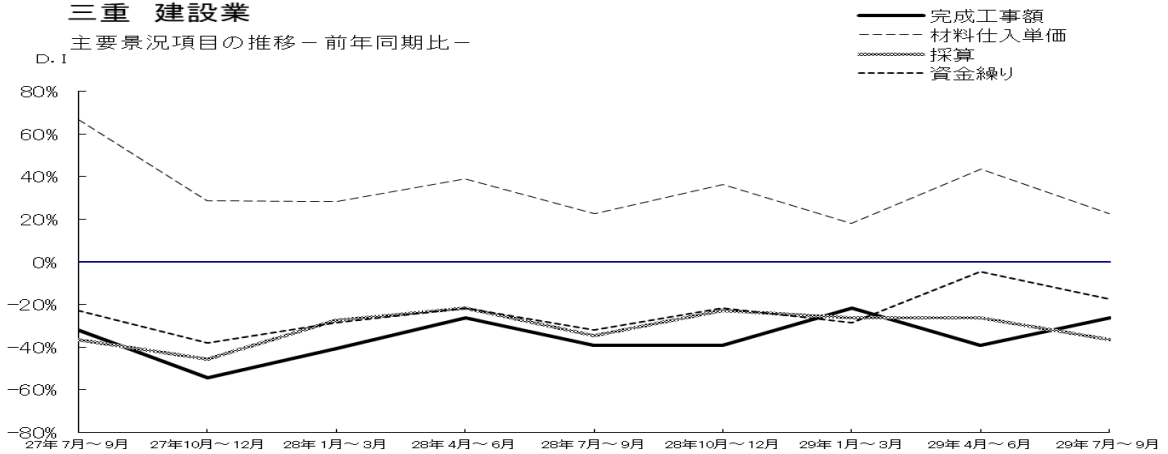
三重 製造業

主要景況項目の推移 - 前年同期比 -



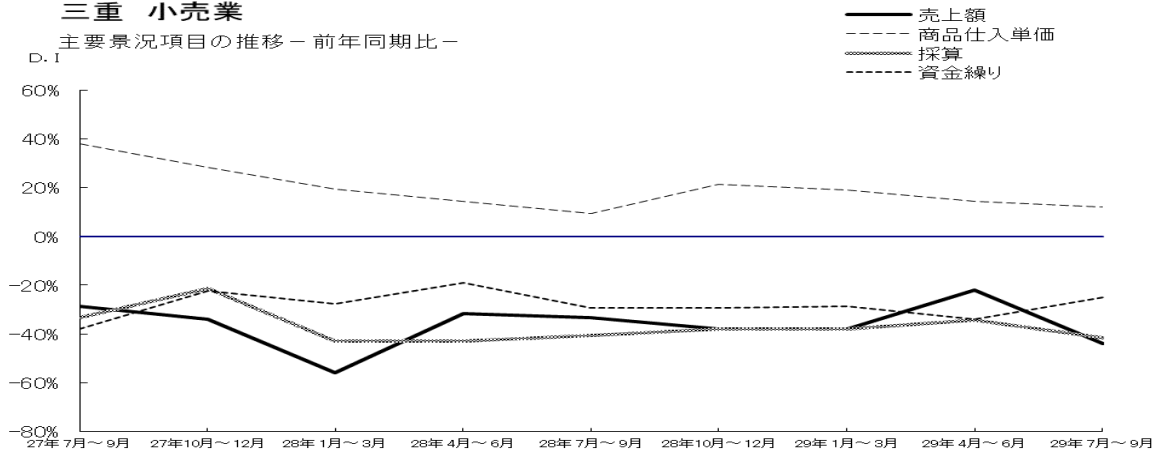
三重 建設業

主要景況項目の推移 - 前年同期比 -



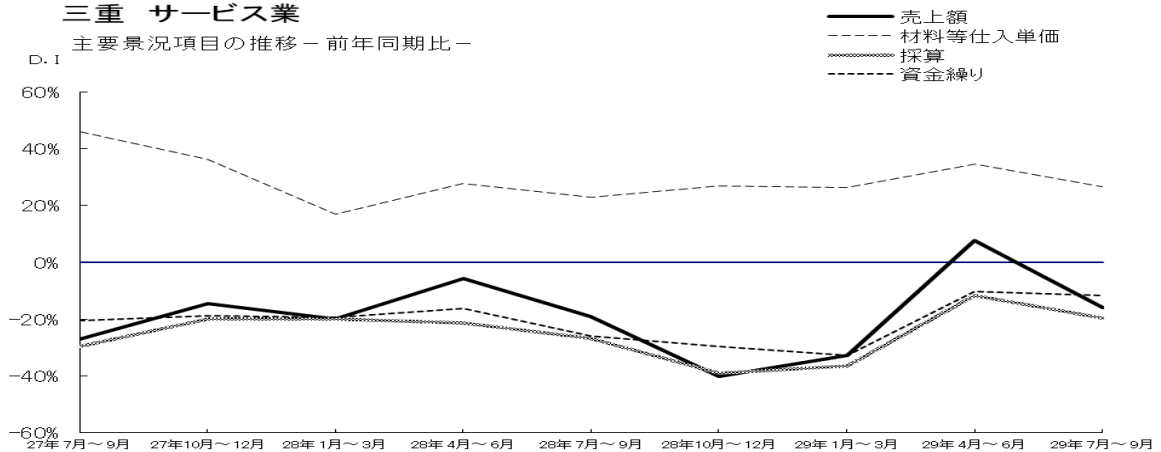
三重 小売業

主要景況項目の推移 - 前年同期比 -



三重 サービス業

主要景況項目の推移 - 前年同期比 -



1. 売上高

前年同期比にみる今期（2017年7月～9月）の売上高のD・I値の状況は、後掲の売上額の推移グラフでも明らかなおり前期とは大きく様変わりしている。前期は4業種の中で唯一プラス局面にあったサービス業がプラス7.7から23.3ポイントも悪化させてマイナス16.0となった。反対に、前期マイナス36.3と振るわなかった製造業が33.3ポイントと劇的な改善を示し、プラス局面まであと一步のマイナス3.0となった。建設業も前期のマイナス39.2から13.1ポイント改善させマイナス26.1に戻ってきているが、小売業は前期に16.2ポイント改善させた以上の22.0ポイントも悪化させマイナス43.9と厳しい状況になっている。なお、業種ごとに情勢をみると次のとおりである。

製造業は、前期に比べ減少企業が24.2ポイントと大幅に減少し、増加企業が9.1ポイント、不変企業が15.1ポイント増加したことで、D・I値は33.3ポイントと劇的に改善してマイナス3.0となっている。ここ1年間はマイナス30、40台で推移していたが、今期は一気にマイナス一桁台に達している。マイナス3.0は2015年7月～9月期のマイナス3.1を超えるものであり、この傾向が続くことを期待する。個別項目の売上(加工)単価は前期より9.1ポイント悪化しマイナス6.1となり、プラス局面からマイナス局面に転じてしまった。売上(加工)数量は、前期に比べて27.4ポイント改善しプラス3.2となっている。前々期のマイナス46.8から前期22.6ポイント、今期27.4と合わせて50.0ポイントと驚異的な改善を示し、プラス局面に転じている。

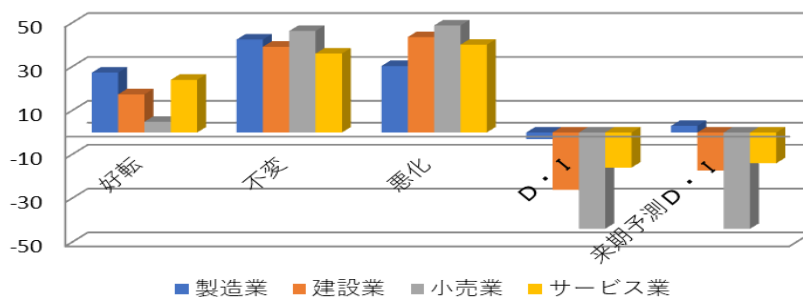
建設業は、前期に比べて増加企業が4.4ポイント、不変企業が4.3増加し、減少企業が8.7ポイント減少したことで、D・I値は13.1ポイント改善しマイナス26.1となっている。前期に17.5ポイントも悪化しマイナス40の一步手前まで下降していたが、今期直ぐに改善に転じて悪化傾向が続くのを食い止めた。個別項目の受注(新規契約工事)額は、完成工事(請負工事)額とは対照的に、前期に比べて10.1ポイント悪化しマイナス31.9となっている。これで4期続けて、完成工事(請負工事)額と受注(新規契約工事)額は正反対の動きをしており、足並みが揃わない。

小売業は、増加企業が7.3ポイント、不変企業が7.4ポイント減少し、減少企業が14.7ポイント増加した結果、D・I値は22.0ポイントと大幅に悪化してマイナス43.9となった。2016年1月～3月期にマイナス56.0と非常に厳しい状況になった以降は、前々期まで4期連続でマイナス30台で推移し、前期によりやくマイナス21.9と改善の兆しが見えたが、今期は、マイナス30台を超えてマイナス40台に達して再び厳しい状況となっている。個別項目の客単価は前期に比べ0.1ポイント改善しマイナス34.1となっているが、客数は17.0ポイント悪化しマイナス48.7となっている。前期まで両項目とも同じような動きをしていたが、今期は明暗が分かれる結果となった。

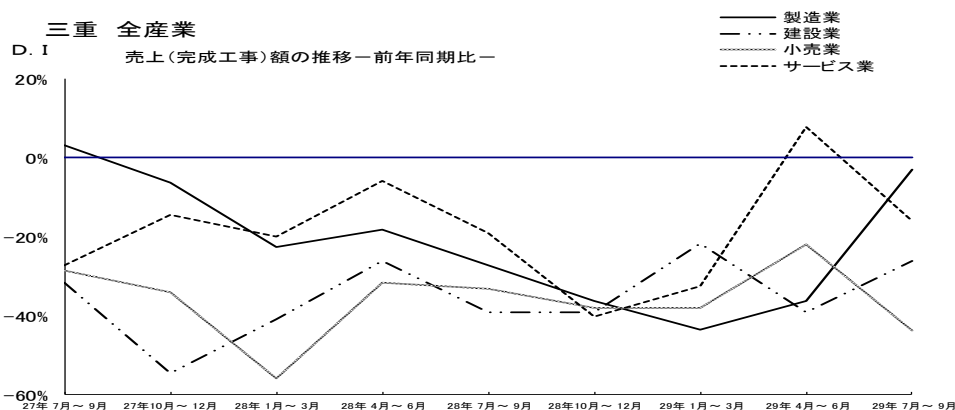
サービス業は、増加企業が10.6ポイント、不変企業が2.5ポイント減少し、減少企業が13.1ポイント増加したことで、D・I値は23.3ポイントと大幅な悪化となった。前期が、40.4ポイントと驚異的な改善で一気にプラス7.7になったが、今期はその反動もあって大幅な悪化になっている。それでも、前期の改善幅の6割程度の悪化に留まっており、マイナス16.0と以前と比べれば健闘している状況にある。個別項目においては客単価がマイナス14.0で横ばいとなっている。利用客数は15.6ポイント悪化し、マイナス21.6となっている。利用客数も売上額のD・Iと同じように前期に41.0ポイントと大幅に改善した反動もあって今期は悪化に転じている。

来期(2017年10月～12月期)については、製造業が今期実績のマイナス3.0から6.0ポイント改善しプラス3.0とプラス局面になることを予測している。建設業も今期より8.7ポイント改善しマイナス17.4と来期も今期の改善傾向を維持していくと見込んでいる。サービス業は、今期の悪い流れを止めて2.0ポイント改善しマイナス14.0となることを予測している。小売業は、悪化こそしないものの今期実績と同じマイナス43.9と見込んでおり、他の業種と比べると来期も厳しい状況が続くと思われる。

| | 増加 | | 不変 | | 減少 | | D・I値 | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 18.2 | 27.3 | 27.3 | 42.4 | 54.5 | 30.3 | △36.3 | △3.0 | +33.3 | +3.0 |
| 建設業 | 13.0 | 17.4 | 34.8 | 39.1 | 52.2 | 43.5 | △39.2 | △26.1 | +13.1 | △17.4 |
| 小売業 | 12.2 | 4.9 | 53.7 | 46.3 | 34.1 | 48.8 | △21.9 | △43.9 | △22.0 | △43.9 |
| サービス業 | 34.6 | 24.0 | 38.5 | 36.0 | 26.9 | 40.0 | +7.7 | △16.0 | △23.3 | △14.0 |



| 業種 | 個別項目 | D・I 値 | | | |
|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 売上(加工) 単価 | +3.0 | △6.1 | △9.1 | ±0.0 |
| | 売上(加工) 数量 | △24.2 | +3.2 | +27.4 | +3.1 |
| 建設業 | 受注(新規契約工事) 額 | △21.8 | △31.9 | △10.1 | △30.5 |
| 小売業 | 客単価 | △34.2 | △34.1 | +0.1 | △42.5 |
| | 客数 | △31.7 | △48.7 | △17.0 | △46.3 |
| サービス業 | 客単価 | △14.0 | △14.0 | ±0.0 | △21.6 |
| | 利用客数 | △6.0 | △21.6 | △15.6 | △18.0 |



2. 採算

前年同期比に見る今期（2017年7月～9月）の採算のD・I値は、マイナス幅の最も小さい順に並べると製造業がマイナス15.1、サービス業がマイナス19.6、建設業がマイナス36.4、そして、小売業がマイナス41.5となっている。後掲の採算の推移のグラフでも明らかなように、製造業が前期に比べて16.1ポイントと大きく改善しているのに対し、建設業は10.3ポイント、小売業が7.3ポイント、サービス業が7.8ポイント悪化している。製造業は前々期は最もD・I値のマイナス幅が大きかったが、そこから2期連続で大幅な改善を示し、今期では最もマイナス幅が小さくなっている。なお、業種ごとに情勢をみると次のとおりである。

製造業は、前期に比べて好転企業が8.9ポイント増加し、不変企業が1.7ポイント、減少企業が7.2ポイント減少したことで、D・I値は前期に比べて16.1ポイント改善しマイナス15.1となっている。2期連続で大幅な改善となっており、前々期のマイナス51.6と比べると劇的な変化となっている。個別項目においては、原材料仕入単価が前期に比べて0.9ポイント悪化しプラス26.7となっている。2期連続で悪化となっているが、依然としてプラス局面で推移している。原材料在庫数量は前期に比べ13.8ポイント悪化しマイナス13.8となっている。製品在庫数量も前期に比べて6.9ポイント悪化しマイナス6.9となっている。原材料在庫数量及び製品在庫数量ともに改善と悪化を繰り返しており、安定した状況となっていない。

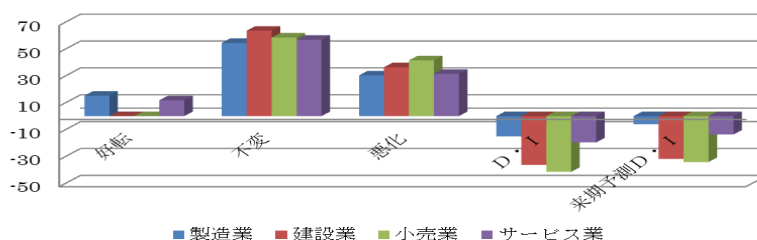
建設業は、好転企業が8.7ポイント減少し、不変企業が7.1ポイント、悪化企業が1.6ポイント増加して、D・I値は10.3ポイント悪化してマイナス36.4となっている。ここ3期はマイナス20台で推移していたが、1年ぶりにマイナス30を超えた。個別項目の材料仕入単価は、前期に25.3ポイントと劇的な改善をした反動もあってか、今期は20.8ポイントと大幅に悪化させプラス22.7となっている。それでも、プラス20台をキープしており、他の項目と比べると高い水準で推移している。

小売業は、前期に比べて好転企業が7.3ポイント減少し、不変企業が同ポイント増加したことで、D・I値も前期に比べて7.3ポイント悪化し、マイナス41.5となっている。小売業もここ3期はマイナス30台で推移していたのに今期は1年ぶりにマイナス40を超えてしまった。個別項目においては、プラス局面で推移している商品仕入単価が2.4ポイント悪化しプラス12.2となっている。これで3期連続して悪化することになる。商品仕入額は前期にくらべ4.9ポイント悪化しマイナス12.2となった。前期大幅に改善したがその流れを継続できずに悪化に転じてしまった。商品在庫数量は前期に比べて7.3ポイント悪化しマイナス31.7となり、2011年1月～3月期のマイナス33.3以来のマイナス30越となってしまった。

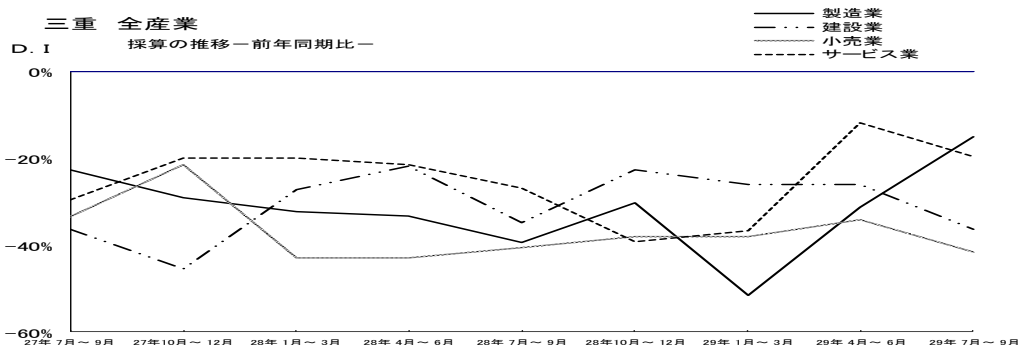
サービス業は、好転企業が5.8ポイント減少し、不変企業が3.8ポイント、減少企業が2.0ポイント増加したことで、D・I値は7.8ポイント悪化してマイナス19.6となっている。前期に24.8ポイントと劇的に改善した反動が少し出たが、それでもマイナス20を切っており、踏みとどまっている状態と言える。個別項目の材料等の仕入単価は、前期に8.3ポイント改善したが、今期は8.2ポイント悪化しプラス28.6となり、前々期の水準に戻ってしまった。

来期（2017年10月～12月）については、製造業が今期実績に比べて9.0ポイント改善しマイナス6.0、建設業が4.5ポイント改善しマイナス31.9、小売業が7.3ポイント改善しマイナス34.2、サービス業も5.9ポイント改善しマイナス13.7と全業種が今期よりも改善すると予測している。特に、製造業は前期と今期の改善傾向の勢いを活かしてマイナス幅を小さくしてマイナス一桁台に達すると見込んでいる。

| | 好転 | | 不変 | | 悪化 | | D・I値 | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 6.3 | 15.2 | 56.2 | 54.5 | 37.5 | 30.3 | △31.2 | △15.1 | +16.1 | △6.1 |
| 建設業 | 8.7 | 0.0 | 56.5 | 63.6 | 34.8 | 36.4 | △26.1 | △36.4 | △10.3 | △31.9 |
| 小売業 | 7.3 | 0.0 | 51.2 | 58.5 | 41.5 | 41.5 | △34.2 | △41.5 | △7.3 | △34.2 |
| サービス業 | 17.6 | 11.8 | 53.0 | 56.8 | 29.4 | 31.4 | △11.8 | △19.6 | △7.8 | △13.7 |



| 業種 | 個別項目 | D・I値 | | | |
|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| | | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 原材料仕入単価 | +27.6 | +26.7 | △0.9 | +29.0 |
| | 原材料在庫数量 | ±0.0 | △13.8 | △13.8 | △10.0 |
| | 製品在庫数量 | ±0.0 | △6.9 | △6.9 | △13.3 |
| 建設業 | 材料仕入れ単価 | +43.5 | +22.7 | △20.8 | +18.2 |
| 小売業 | 商品仕入単価 | +14.6 | +12.2 | △2.4 | +10.2 |
| | 商品仕入額 | △7.3 | △12.2 | △4.9 | +5.0 |
| | 商品在庫数量 | △24.4 | △31.7 | △7.3 | △30.7 |
| サービス業 | 仕入単価(材料等) | +34.8 | +28.6 | △8.2 | +27.7 |



3. 資金繰り

今期（2017年7月～9月）の資金繰りのD・I値は、マイナス幅の小さい順に並べるとサービス業がマイナス11.7、製造業がマイナス15.1、建設業がマイナス17.4、そして、小売業がマイナス25.0となっている。サービス業は前期と比べて1.5ポイント悪化しただけでほぼ横ばいと言える。その他の業種は大きく変化しており、製造業は前期に比べて16.1ポイント、小売業も9.1ポイントと大幅に改善している。逆に、建設業は前期がマイナス4.4とあと一步でプラス局面といったところまで来ていたが、今期は13.0ポイントも悪化させてしまった。なお、業種ごとに情勢をみると次のとおりである。

製造業は、好転企業が2.8ポイント、不変企業が10.5ポイント増加し、悪化企業が13.3ポイント減少したことでD・I値は16.1ポイント改善しマイナス15.1となっている。これで3期連続して改善するとともに、マイナス20を切ったのは2014年7月～9月期のマイナス17.2以来3年ぶりのことである。個別項目では、受取手形期間が前期に比べて5.0ポイント悪化し、±0.0となり、前々期と同じ水準に戻ってしまった。長期資金借入難度は、前期に16.0ポイント悪化させてマイナス20.0となったが、今期は6.2ポイント巻き返しマイナス13.8となっている。短期期資金借入難度も、前期に22.2ポイント悪化させマイナス22.2となったが、今期に14.5ポイント改善しマイナス7.7に戻ってきている。借入金利については、前期のマイナス3.4から10.9ポイントも悪化しマイナス14.3となっており、改善傾向が止まってしまった。

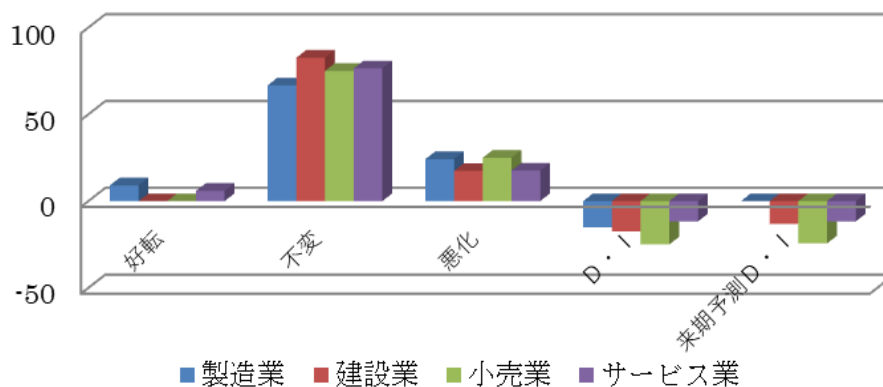
建設業は、悪化企業が17.4ポイントで横ばいだったが、好転企業が13.0ポイント減少し、不変企業が同ポイント増加し、D・I値は13.0ポイント悪化してマイナス17.4になっている。前期に23.8ポイントと劇的な改善をしてマイナス4.4となったが、それを維持できなかった。さらに、好転企業は0.0となっていることも気になる。個別項目は、受取手形期間は、前期と同じ±0.0となっており、3期連続で±0.0となっている。長期資金借入難度は、前期に比べて0.3ポイント改善しマイナス5.5となっている。改善幅は小さいがこれで3期連続して改善している。短期資金借入難度も、前期に比べて0.3ポイント改善しマイナス5.5となっており、長期資金借入難度と同じような傾向となっている。借入金利は、前期のプラス12.5から12.5ポイントと大幅に悪化して±0.0となっている。

小売業は、好転企業が±0.0で今期も横ばい、不変企業が9.1ポイント増加し、悪化企業が9.1ポイント減少したことで、D・I値は前期と比べて9.1ポイント改善しマイナス25.0となっている。前期に2年ぶりにD・I値がマイナス30を超えて心配されたが、今期直ぐに盛り返すことができた。個別項目では、長期資金借入難度は、13.8ポイントと大幅に改善しマイナス10.3となっている。2期連続で大幅な改善を示し、1年前の水準に戻ってきている。短期資金借入難度も前期に比べ8.0ポイント改善しマイナス3.5となっている。こちらも2期連で改善している。借入金利についても前期に比べて3.8ポイント改善し±0.0となっている。前期にはプラス局面からマイナス局面に転じたが、今期は±0.0に戻ってきている。

サービス業は、好転企業が2.3ポイント、悪化企業が0.8ポイント減少し、不変企業が3.1ポイント増加した結果、D・I値は1.5ポイント悪化しマイナス11.7となっている。前々期までマイナス30前後で推移していたが、ここ2期はマイナス10を超えた程度で推移しており、安定している。個別項目では、長期資金借入難度が前期と比べると7.7ポイント改善、短期資金借入難度も13.2ポイント改善し、どちらも今期は±0.0とあと少しでプラス局面に転じることができるところまで来ている。借入金利も2.6ポイント改善し、マイナス5.1となっている。4期連続でマイナス一桁を維持しており、あと少しでプラス局面に転じることができると見込める。

来期（2017年10月～12月）については、製造業が今期実績より15.1ポイント改善しプラスマイナス0.0、建設業が4.2ポイント改善しマイナス13.1、小売業も0.6ポイント改善しマイナス24.4と予測している。サービス業も今期実績と横ばいのマイナス11.7を予測している。製造業は大きく改善する見込みであり、他の業種も横ばいから改善傾向となっており、今期よりは良い状態になると思われる。

| | 好転 | | 不変 | | 悪化 | | D・I値 | | | |
|-------|------|-----|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 6.3 | 9.1 | 56.2 | 66.7 | 37.5 | 24.2 | △31.2 | △15.1 | +16.1 | ±0.0 |
| 建設業 | 13.0 | 0.0 | 69.6 | 82.6 | 17.4 | 17.4 | △4.4 | △17.4 | △13.0 | △13.1 |
| 小売業 | 0.0 | 0.0 | 65.9 | 75.0 | 34.1 | 25.0 | △34.1 | △25.0 | +9.1 | △24.4 |
| サービス業 | 8.2 | 5.9 | 73.4 | 76.5 | 18.4 | 17.6 | △10.2 | △11.7 | △1.5 | △11.7 |



| 業種 | 個別項目 | D・I 値 | | | |
|-------|-----------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 前期 | 当期 | 前期比 | 来期予測 |
| 製造業 | 受取手形期間 | +5.0 | 0.0 | △5.0 | ±0.0 |
| | 長期資金借入難度 | △20.0 | △13.8 | +6.2 | △14.8 |
| | 短期資金借入難度(含手形割引) | △22.2 | △7.7 | +14.5 | △12.0 |
| | 借入金利 | △3.4 | △14.3 | △10.9 | △7.1 |
| 建設業 | 受取手形期間 | ±0.0 | ±0.0 | ±0.0 | ±0.0 |
| | 長期資金借入難度 | △5.8 | △5.5 | +0.3 | △5.9 |
| | 短期資金借入難度(含手形割引) | △5.8 | △5.5 | +0.3 | △5.9 |
| | 借入金利 | +12.5 | 0.0 | △12.5 | ±0.0 |
| 小売業 | 長期資金借入難度 | △24.1 | △10.3 | +12.8 | △21.4 |
| | 短期資金借入難度(含手形割引) | △11.5 | △3.5 | +8.0 | △14.8 |
| | 借入金利 | △3.8 | 0.0 | +3.8 | ±0.0 |
| サービス業 | 長期資金借入難度 | △7.7 | 0.0 | +7.7 | △4.9 |
| | 短期資金借入難度(含手形割引) | △13.2 | 0.0 | +13.2 | ±0.0 |
| | 借入金利 | △7.7 | △5.1 | +2.6 | △2.5 |

4. 設備投資

今期（2017年7月～9月）に設備投資を実行した企業割合が高いのは、順に製造業23.5%、サービス業17.3%、小売業14.6%、建設業13.0%となっている。前期との対比では、製造業が8.8ポイント、建設業が4.3ポイント、小売業が2.4ポイント増加し、サービス業は横ばいとなっており、全体的には各業種とも設備投資を安定的に実施している。

前期投資計画と今期投資実績を比べてみると、小売業だけが前期計画7.3%から今期投資実績14.6%と倍増となっている。これに対して、他の業種は、製造業が32.4%から8.9ポイント下降し23.5%、建設業は17.4%から4.4ポイント下降し13.0%、サービス業も21.2%から3.9ポイント下降し17.3%と前期の投資計画よりもポイントが低く、設備投資が計画通りに進んでいないことを物語っている。

今期投資実績において1番多い投資項目を業種別に見てみると、製造業では「生産設備」が50.0%、続いて「土地」、「工場建物」と「OA機器」が37.5%となっている。生産活動に直結する「生産設備」や「工場建物」、効率化等に役立つ「OA機器」への投資が中心となっている。建設業の設備投資の実績としては「車両・運搬具」が66.7%でトップとなっている。前々期まで、8期連続でトップだったが、前期は0.0%と全く設備投資されなかった。しかし、今期は66.7%と前々期と同じ水準に戻っている。次に多いのは「建設機械」である。前期の50.0%より16.7ポイント下降したものの33.3%を占めている。「建設機械」と同率で前期トップだった「OA機器」は、今期は0.0%と設備投資の対象となっていない。小売業は「車両・運搬具」と「販売設

備」が50.0%でトップに並んでいる。「車輛・運搬具」は前期の80.0%から30ポイント下降、「販売設備」は20.0%から30ポイント上昇して同率である。このところ、小売業では「車輛・運搬具」と「販売設備」の2項目への投資が多くなってきている。サービス業では前期に引き続き「建物」がトップとなっており、ポイントも前期と同じ44.4%で推移している。次いで「その他」が22.2%となっている。投資実績項目も他の業種よりも多く、投資項目が分散化している。

前期投資計画で予定していた投資項目と今期投資実績の投資項目の上位を見比べると、製造業では「生産設備」が計画、実績ともにトップに位置している。「OA機器」も計画、実績とも2位であり、計画通りに設備投資が実行されている。「土地」、「工場建物」は計画にはなく、実績に新たに加わっている。建設業では、計画で「建設機械」、「車輛・運搬具」、「附帯施設」、「その他」と4項目が同率で一位になっていたが、実績では「車輛・運搬具」がトップで、2位に「建設機械」と続いている。小売業では「車輛・運搬具」と「販売設備」が計画、実績ともに同率で1位にランクされており、計画通りに設備投資が実行されている。サービス業については、他の業種に比べると計画と実績の項目が合致していない。

来期（2017年10月～12月）の投資計画がある企業割合は、高い順に示すと建設業30.4%、製造業11.8%、サービス業が11.5%、小売業が4.9%となっており、業種によって大きく開きがある。建設業は、今期実績が13.0%で4業種の中で設備投資実績が最も少なかったが、来期の投資計画は実績に比べて17.4ポイント上昇し30.4%で4業種の中で最も高くなっている。建設業が来期投資計画で20%を超えたのは、2014年4月～6月期以来のことである。反対に、製造業は今期実績より11.7ポイント、小売業は9.7ポイント、サービス業が5.8ポイント今期実績より減少しており、投資意欲が伸び悩んでいる。

来期の設備投資計画の項目は、製造業が今までの流れを維持して「生産設備」がトップであるが、同率で「土地」が並んでいる。建設業は「建設機械」と「車輛・運搬具」が前期や実績に引き続きトップに並んでいるが、「OA機器」も同率でトップに位置している。小売業は、前期や実績でトップだった「車輛・運搬具」が引き続きトップになっているが、同じくトップだった「販売設備」が0.0%と全く計画されておらず、代わって「OA機器」がトップに並んでいる。サービス業は実績トップの「建物」が計画でもトップになっているが、2位には「車輛・運搬具」と「OA機器」が入っており、実績とは違う項目の投資も計画されている。

| | | | | | | |
|-------|------------------------|------|----------------|------|--------------------|-------|
| 製造業 | 前期投資計画 | 32.4 | 今期投資実績 | 23.5 | 来期投資計画 | 11.8 |
| | 1 生産設備 | 72.7 | 1 生産設備 | 50.0 | 1 土地、生産設備 | 72.7 |
| | 2 OA機器 | 27.3 | 2 土地、工場建物、OA機器 | 37.5 | --- | --- |
| 建設業 | 前期投資計画 | 17.4 | 今期投資実績 | 13.0 | 来期投資計画 | 30.4 |
| | 1 建設機械、車輛・運搬具、附帯施設、その他 | 25.0 | 1 車輛・運搬具 | 66.7 | 1 建設機械、車輛・運搬具、OA機器 | 28.6 |
| | --- | --- | 2 建設機械 | 33.3 | --- | --- |
| 小売業 | 前期投資計画 | 7.3 | 今期投資実績 | 14.6 | 来期投資計画 | 4.9 |
| | 1 販売設備、車輛・運搬具 | 66.7 | 1 販売設備、車輛・運搬具 | 80.0 | 1 車輛・運搬具、OA機器 | 100.0 |
| | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| サービス業 | 前期投資計画 | 21.2 | 今期投資実績 | 17.3 | 来期投資計画 | 11.5 |
| | 1 附帯施設、OA機器 | 27.3 | 1 建物 | 44.4 | 1 建物 | 50.0 |
| | --- | --- | 2 その他 | 22.2 | 2 車輛・運搬具、OA機器 | 33.3 |

5. 経営上の問題点

今期（2017年7月～9月）の直面している経営上の問題点について、業種ごとに情勢をみると次のとおりである。

製造業の経営上の問題点として、「需要の停滞」がトップになっている。下のグラフを見ても明らかなおとおり、過去2年間においても常にトップで、製造業における経営上の問題点として固定化されている。前期は下降して21.9%となったが、今期は再び上昇して28.1%となり、他の項目との開きも大きくなっている。2位には15.6%から12.5%に下降した「製品ニーズの変化」と「製品（加工）単価の低下、上昇難」が、前期と同じく同率で並んでいる。「製品（加工）単価の低下、上昇難」は常に上位にランクしているが、「製品ニーズの変化」はこの前期から10%を超えるようになっている。次に「人件費の増加」と「従業員の確保難」がともに9.4%で4位になっている。どちらも、人手に関する項目であり、前期は「熟練技術者の確保難」が4位にランクされていたこともあり、人手、人材に関する項目が構造的な問題点となってきていることがうかがえる。

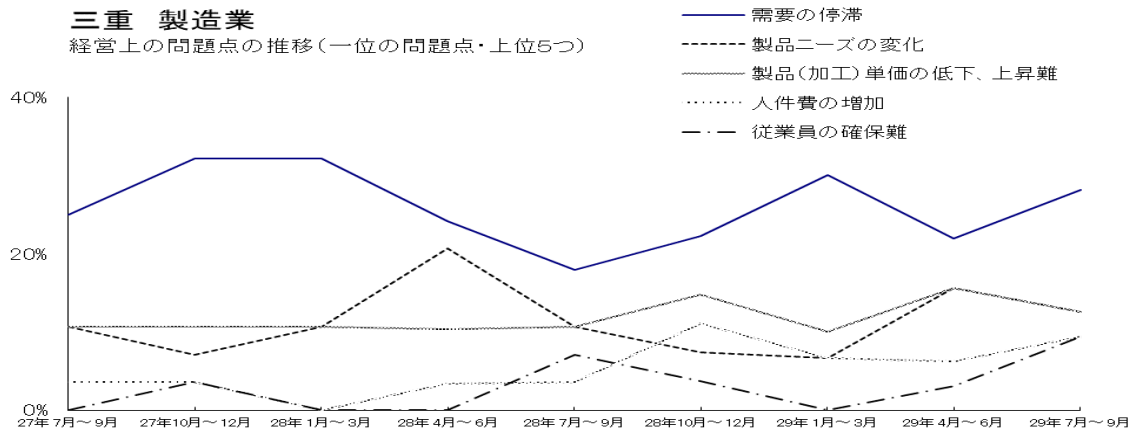
建設業の経営上の問題点は、下のグラフのとおり「官公需要の停滞」が他の項目を大きく引き離してトップになっている。前々期は、「請負単価の低下、上昇難」や「民間需要の停滞」と並んでトップになっていたが、前期から単独トップになり、今期は他の項目と大きな開きが出ており、「官公需要の停滞」の深刻さがうかがえる。2位には前期の0.0%から15.8%上昇した「従業員の確保難」が入っている。前々期までは10%台で推移していたのが、前期に0.0%となって問題が解消したかと思われたが、人手不足は構造的な問題であり、簡単には解決できない問題であることを証明した格好である。3位には「材料価格の上昇」、「請負単価の低下、上昇難」、「取引条件の悪化」、「民間需要の停滞」（下のグラフには記載されていない）の4項目が10.5%の同率で入っている。

小売業では、「需要の停滞」が前期の19.5%から4.9ポイント上昇し24.4%でトップになっている。以前は、常にトップを推移していた「需要の停滞」であるが、2016年7月～9月期より1年ぶりの単独トップとなっている。2位には14.6%から4.9ポイント上昇し19.5%となった「購買力の他地域への流出」が入っている。「購買力の他地域への流出」も常に10%の後半で推移しており、地域の小売業者にとっては深刻な問題となっている。3位には、前期24.4%でトップだった「大型店・中型店の進出による競争の激化」が9.8ポイント下降し14.6%となっている。今期は3位になったが、今までは20%前後で推移し、常にトップ3に入るような問題点であり、小売業者にとっては「大型店・中型店の進出による競争の激化」は脅威となっている。4位には、「同業者の進出」、「消費者ニーズの変化」、「店舗の狭隘・老朽化」、「販売単価の低下、上昇難」の4項目が7.3%の同率で入っている。

サービス業では、「需要の停滞」が前期に引き続きトップになっている。3期前は10%に満たない8.5%であったが、2期前に12.8%、前期は19.1%と上昇してきて、今期は31.1%と急激な上昇を示している。以前は常にトップを維持していた「需要の停滞」が、ここに来て他の項目と大きく水をあけてトップになっており、サービス業者においては「需要の停滞」が重要な問題点となってきている。次には、「店舗の狭隘・老朽化」が前期より2.7ポイント上昇し13.3%で2位になっている。3位には「従業員の確保難」が入っている。前期の14.9%より下降して11.1%となっているが、2015年7月～9月期以降9期連続で二桁の10%以上で推移しており、サービス業における人手不足が慢性的になってきており、構造的な課題として今後も問題点として継続される見込みである。

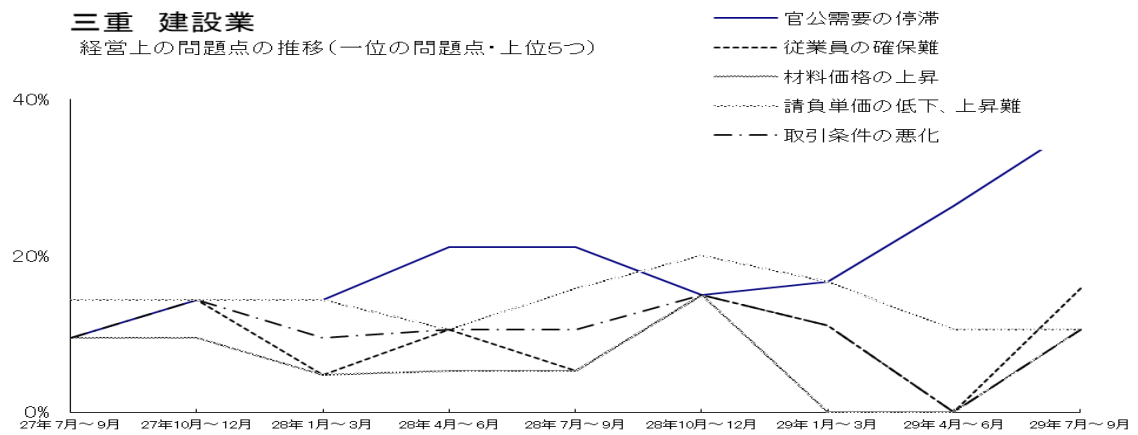
三重 製造業

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



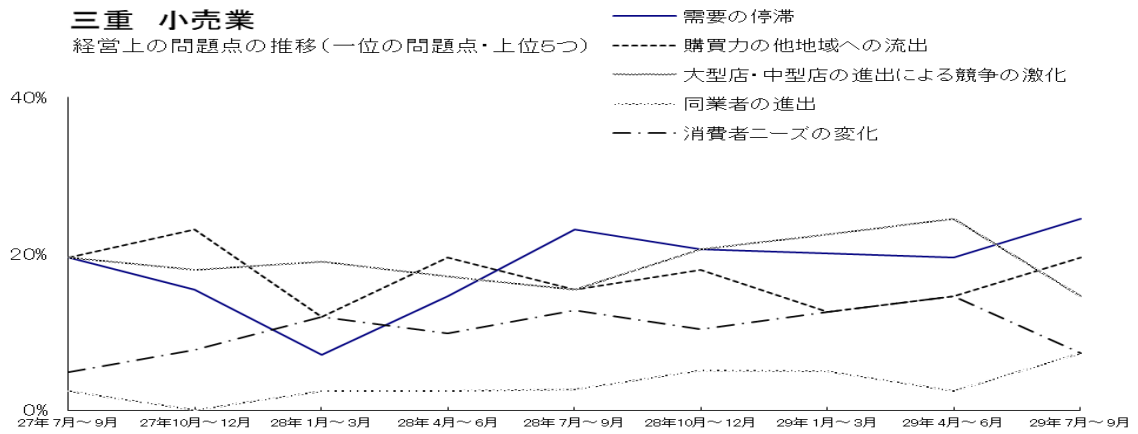
三重 建設業

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



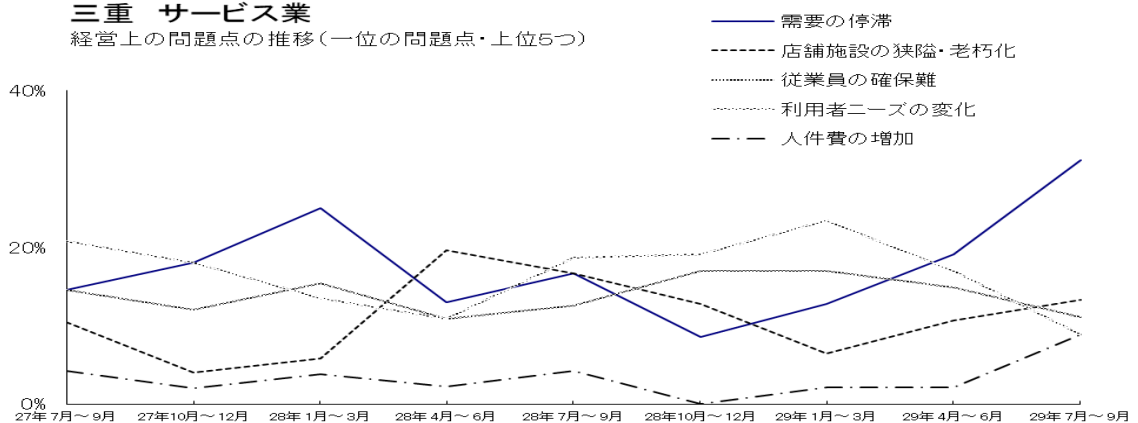
三重 小売業

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



三重 サービス業

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



【経営上のアドバイス】

経営計画作成アプリ「経営計画つくるくん」を活用して、経営者自らが経営計画づくりにチャレンジ！

経営計画作成の必要性やP（計画）→D（実行）→C（評価）→A（改善）のPDCAサイクル実践の重要性・有効性については、今までに何度もご紹介してきました。

ただ、実際には営業や現場作業、財務・労務管理など日々の業務に追われ、なかなか経営者自身が落ち着いて現状分析から3年先、5年先のあるべき姿をイメージして経営計画を作成する時間的、精神的な余裕がないのが実情かと思います。

しかしながら、そんなことを言っているだけではいつまで経っても経営計画は作成することができません。簡単なものでもいいので自身の頭で考え、構想を練った経営計画をまずは作成して見るのが重要です。一度作成するとそれをベースにして、実行→評価→改善に取り組み、少しずつ経営計画の内容がバージョンアップしていくものと思われます。

ではどうやって自身の力で経営計画を作成していくか？ですが、中小企業基盤整備機構が開発した経営計画を作成するアプリ「経営計画つくるくん」を活用して、作成すると自身の力だけでも簡単な経営計画を作成することができます。

「経営計画つくるくん」は、対話式になっており、下記の項目について、選択肢から自社に該当する項目を選択したり、自社の状況や将来のことを入力したりする程度で、経営計画のフォームに整理して、アウトプットしてくれます。また、アプリから自身のメールアドレスに計画内容がEXCELファイルとして転送されるので、それをさらにブラッシュアップすることもできます。

アウトプットされる経営計画書は、1. 企業概要、2. 顧客ニーズと市場の動向、3. 自社自社の提供する商品・サービスの強み、4. 経営方針・目標と今後のプランに区分されています。これは、小規模事業者持続化補助金で作成が義務づけられていた経営計画書と同じく区分になります。実際、持続化補助金の申請に際しては、「経営計画つくるくん」で作成しアウトプットした経営計画書の内容では物足りない部分はあると思います。しかし、経営者自身が忙しい時間を割いて効率的に経営計画を作成するには十分活用できると思います。そして、これを経営計画作成の第一歩としてとらえ、PDCAサイクルを実践し、すこしずつスパイラルアップさせ、よりよい経営計画を作成していきましょう。

「経営計画つくるくん」の設問内容

- ・企業概要（事業の特徴、売上総額ベスト5、利益ベスト5等）
- ・事業コンセプト（顧客種類）
- ・市場分析（成長性、顧客ニーズ）
- ・競合分析（競合社数、競合社名、競合の戦略、競合の企業規模）
- ・自社分析（自社の強み、ブランドイメージ、自社の業況）
- ・3年後の目標（今後の方針、売上目標、利益目標、事業領域、商圏）
- ・目指す方法（誰に、何を、どのように）

経営計画つくるくんHP（中小企業基盤整備機構） <http://tsukurukun.smri.go.jp/>

「経営計画つくるくん」は、iPad版、Windows版、Android版が用意されていますので、自社の機器に適したバージョンをインストールして活用することができます。